

Smile 庄内

岡山市立庄内小学校

学校だより No.17

令和4年10月27日発行

10月

④

しょうじき なかよし いっしょうけんめい いのちだいじに

校外学習での体験・学び・友達との協力④



1年生 生活科見学

10月12日(水) 1年生みんなで、清音ふるさとふれあい広場に行きました。どんぐり拾いや落ち葉拾いをして、たくさんの秋を見つけました。その後は友達とたのしくお弁当を食べました。拾ったどんぐりや落ち葉は、学校へ持ち帰って、どんぐり独楽やけん玉などを作りました。

5年生 社会科見学

10月20日(木) 5年生は、JFE スチール株式会社とさん太しんぶん館に行きました。JFEでは、鉄作りの現場や、そこで働く人々の様子を見学し、しんぶん館では、新聞づくりや新聞の役割、歴史について学びました。



体験を創る

＝ より意識的に、より能動的に＝

子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、「体験」が欠かせないと考えています。知識は、体験を通してより確かなものとなり、体感と実感を伴ってその活用の範囲が広がっていくものだと考えるからです。これまで紹介した様々な校外学習は、子どもたちにとっての体験の機会に他なりません。でも、学校の外に行かなければ体験ができないわけではありません。理科の実験、国語の友達と討論、家庭科の調理実習、これらすべて体験です。いや、それだけではありません。算数の時間に、友だちが思いもよらない方法を発表した時、「すごいな～」で終わらせずに、別の問題でその方法が使えるかを自分で試してみたら、それも立派な体験になると思います。そう考えれば、学校での学習は、体験の連続だと言えます。要は、その活動を、意識的に、能動的に行っているかどうかなのです。同じことをしても、それが、単なる行為・作業に終わるか、ささやかながらも感動を伴った体験になるかは、それを行う者の意識と態度が大切だと思います。能動的な意識と態度があれば、新出漢字をノートに書くことや給食の牛乳をごくりと飲むことさえも、立派な体験になるかもしれません。本を読んだり人から聞いたりして、知ったつもりになっていることに、改めて自分で挑戦することで、新たな体験は創ることができます。今まで当たり前だと思って無意識に行っていたことを、改めて意識化して行えば、それは確かな体験に変わるはずで。子どもたちが、日常の生活の中でもたくさんの体験ができるように、しっかり支援していきたいと思っています。